



ハカルワカル広場だより

八王子市民放射能測定室

第39号

2022.7.20 発行

発行元 八王子市民放射能測定室 ハカルワカル広場
〒192-0053 八王子市八幡町 5-11 八中ビル2F

HP <https://hachisoku.org> ① hachisoku@gmail.com ☎ 042-686-0820

ゆうちょ銀行振替口座:00180-8-290904 八王子市民放射能測定室

他行からは ゆうちょ銀行:018-0224460 八王子市民放射能測定室



3月5日お茶会「サイレント・フクシマ」上映・意見交換会

ボランティア 二宮 志郎

「100万人を救うために1万人を犠牲にする」というとき、本当に100万人が救われたのかどうか定かではないことが多く、犠牲者の数もまた定かではないことが多い。しかし、犠牲になった人たちは確実にいる。ある時は正義のための尊い犠牲者、別の時は非人道的行為の犠牲者になる。いずれの場合も、犠牲者の存在は歴史の中で負の側面に追いやられ、人々には早く忘れ去って欲しいことになる。ある種の沈黙への圧力がそれを助け、極力早く、できたら犠牲者の孫くらいの世代までにはそれをなかつたことにする。

そういう歴史がどのくらい続いてきたのだろうか。私達が歴史の時間に習ったことは、みんなそういう「忘れ去るべきことが忘れられた後の歴史」だったのだろう。祖父くらいの世代に起こったことはまだ忘れられていないかというところも怪しい。恐らくそういう忘れ去られた犠牲者の上に今の私達は生きているのだろう。

映画「サイレント・フクシマ」を見た時、私達はまずその「サイレント」の意味を考え、それと自分との関係を問われることになる。映画を鑑賞した後、鑑賞者の間で中身を深める議論をすることは実際のところ簡単ではなく主催者側としては悩むところだ。2年前にアヤ監督の映画「太陽が落ちた日」の意見交換会をした時は、主催者の中の数人が予め周到な準備をしておいて、その人たちがパネラーになってアヤ監督との間で対話を進めるという手法を試した。今回も、映画上映とアヤ監督の話を聞くだけのイベントでは、議論を深めるには何か足りない気がしたため、悩んだ結果、「過去にハカルワカルのお茶会で講師を担当してくれた方にゲストとして参加をお願いし、異なるバックグラウンドで活動している識者の方から意見をいただき、それを口火に私達の側で議論を深めていこう」ということになった。

当日(2022年3月5日)の議論

竹峰誠一郎さん(明星大学教授)、中筋純さん(写真家)、河田昌東さん(分子生物学者、チェルノブイリ救援・中部理事)、この順番で3人のゲストに話をいただいた後、アヤ・ドメーニグ監督からコメントをいただいた。その内容を以下の3つの視点でまとめてみようと思う。

1. 沈黙圧力と忘却圧力
2. 圧力に抵抗する人たち
3. 何をすることで抵抗を支援できるか

そして、最後には「なぜ抵抗することが私達にとって重要になるのか」ということも少し考えてみたい。

沈黙圧力と忘却圧力

アヤ監督から、「映画の英語タイトルが Silent Fukushima となっているが、もともとのドイツ語タイトルでは Silence over Fukushima の方が近く、フクシマの上に押しつぶさってくるような沈黙というような意味でサイレントである」という話があった。沈黙させられる状況というのは、そういう何か押しつぶさってくるものがあり、その下にいる状況ということになる。

そこには、自分自身あるいは、地域や職場といったコミュニティの中で発生してくる、「黙っておいた方がいい」という無言の圧力、内側からの圧力が一つある。そして、国や地方の行政が誘導しようとする圧力、日本レベル、世界レベルでの様々な人々の声による圧力、そういった外側からの圧力がある。

この内側からと外側からの圧力でもって沈黙を強いてくる状況の中で、「過去の出来事はもう終わったことにして忘れなさい」という忘却圧力がかかってくる。そして「完全に忘却したらもう沈黙はいりませんということなのだ。その忘却圧力をかけるのにもっとも効果的に使われるのが巨大イベント。オリンピックが正にそれだった。

国家イベントとして「復興の証」などといわれて、ふさがっていない傷口は絆創膏を当てて見せないようにさせて、そして平然と「そんな傷はもうない」と公言する、それを日本中を巻き込んでやるわけだから、その圧力の大きさはとてつもないだろう。ただパンデミックの状況があって、「人類がコロナウイルスに打ち勝った証」とか、勝手に掲げる謳い文句は二転三転し、「あれはいったいなんだったの?」という感じでオリンピックが終わったことでその圧力が弱まっていたとすれば、コロナウイルスも悪いことばかりではなかったと言えるかもしれない。しかし、ウイルスの力を借りなければ忘却圧力を弱めることができない私達も少し情けない。

いずれの圧力も、私達は理解したつもりになることはできても真に理解することは到底できない。なにしろ私達はその圧力の大半を直接に受けるような環境に生きていない。圧力は想像して感じたつもりになることしかできない。ただ、その圧力の中でそれを跳ね返していこうとしている人たちの助けにはなれるのかもしれない。「ひょっとしたら自分にも何かできるかもしれない」、映画の中にも、3人のゲストの発言の中にも、同様に脈打っていると思われたのは、そういう「何かできるかもしれない」という思いからのひたむきな活動に光を当てようとしていることであつたように思える。

圧力に抵抗する人たち

河田さんが原発事故後にチェルノブイリの救援を始めようとした時、「何をしたらいいのか、何ができるのか、それがわからなかった」、「ありとあらゆるところに連絡しているうちに、やっとあるところから返事をもらって医療品の支援から始めた」というような話をされた。河田さんはさらりと言われたが、粘り強い努力を続ける強い意志がなければできなかったことではないかと思う。

ヒロシマ・ナガサキから 9 年後の 1954 年にビキニ事件が起こり、それを機に反核運動が盛り上がりはじめ、11 年後の 1956 年に被団協の結成を見た。長い時間と社会的状況の変化、そういう要素があつて初めて核の被害者が声を上げ始めることができた。

圧力に抵抗するという事は、そう簡単ではないということは言うまでもないが、何かしら外から働きかけ、社会的状況の変化を作る、というようなことが重要なことも見て取れる。

映画の中では、アーティストのような、大衆に向かって何らかの表現者である人たちが、自分たちの表現を使いながら圧力に抵抗する人たちに連帯する様子を描写している。彼らもまた決して諦めない強い意志をもって行動を続けている。

ハカルワカルでも一緒に活動して下さっている反核活動家の上田さんはいつも言う、「諦めなければ、必ず光が見える」。2021 年に発効した核兵器禁止条約も人々が長い間諦めないで少しずつ声を広げていったその成果で、その運動はさらに広がりつつあり、必ずや世界から核兵器を無くすことができる日は来るのである。自らが被爆者で長年地道な努力を続けてきている上田さんの言葉は響くものがある。

さらに、私達が知らないたくさんの方の名もなき小さな人々の活動がある。被爆者にとっての被爆後数年間は生きることそのものがそういう活動であつたことは想像に難くない。「諦めない力」、「長い時間をかける粘り強さ」は、一人で作れているのではなく、それらが合わさってできている。

何をすることで抵抗を支援できるか

一見、無力な試みが繰り返されているようにも見える。映画に出てくる様な人たちの努力、ハカルワカルの様な市民運動の中での努力、フクシマの状況に良心を悩ませている様々な人たちの努力、残念ながらそれらがフクシマをとりまく社会的状況を変えていけるところまでは至っていない。圧倒的な物力でもってオリンピックの様なイベントを仕掛けてこられて、それをどうやって跳ね返すことができるのだろう。

しかし、逆の見方もできる。あれだけ大騒ぎをしてオリンピックを執行し、それで彼らは沈黙させること、忘却させることに成功したと言えるだろうか。彼らの方こそ無力な試みを繰り返しているのではないか。沈黙圧力、忘却圧力の内側にいる名もなき小さな人々は決して諦めてはいない。フクシマは単に世界中の人々が知る言葉になっただけではない。世界中に核の犠牲の存在に良心を痛めている人たちがいて、一見無力な小さな力にすぎないようでも、人々の努力は合わさり、集合知として機能している。

フクシマに限らず、世界中にいる核の犠牲者、そこにいる名もなき小さな人たちの声に精一杯耳を傾けて、「聞いたよ！ 応援するよ！」というシグナルを送ること、それが少しでもできればいいのかなと私は思う。

最後に

インドのデリーの大気汚染の酷さはよく聞く。そこで息をしているだけで一日にタバコを 10 本吸うのと同じぐらい悪い空気を吸ってしまうらしい。喘息で苦しむ子どもたちがどれだけいるか、悲惨な話は限りなくあるだろう。

「だからこそ、化石燃料を燃やすことをまずやめなければいけない。原発が使えるなら使え。原発のせいで病気になった子どもの数はずっと少ない。」

「デリーの子どもたちの悲惨な話に耳を傾ける必要がある」というのに全く異論はない。そういう子どもたちもみな名もなき小さな人々であり、世界全体の経済発展の負の側面の中で沈黙させられ、忘却させられようとしている。問題が核や放射能だけでないことは明らかだ。しかしだからと言って「原発が使えるなら使え」というのは短絡的ではないだろうか。原発を1基や2基増やしたところでデリーの子どもたちは救われない。この話で原発利用を促進しようとするに関する議論はとてもここでは語れないたくさんの問題を抱えている。

私が心配になるのは、大義の前に、沈黙圧力や忘却圧力を正当化することだ。その大義はたいてい多数派にとっての大義だ。冒頭に書いた「100万人を救うために1万人を犠牲にする」ということにも共通する。

「化石燃料を燃やすことをまずやめなければいけない」、大義はそこにある。世界中が同じ大義を掲げた時、その大義を妨げると思われることに対する沈黙圧力、忘却圧力は凄まじいだろう。

「核兵器開発を進めないとドイツが先に開発して、何百万人が犠牲になるかわからない」

「核兵器を使わないと日本軍が抵抗して、何百万人が犠牲になるかわからない」

「核実験をすすめないとソ連に先に進まれて、何百万人が犠牲になるかわからない」

「原発を利用しないと石油がなくなって、何百万人が犠牲になるかわからない」

「原発を利用しないと温暖化が促進して、何百万人が犠牲になるかわからない」

大義の前にそこで犠牲になった人たちを沈黙させ、事実を忘却させる。そこでその大義自身が矛盾を深め、そしてそれを解決する新しい大義を掲げる。そしてまたその大義の前に…。結局こういう歴史を繰り返してきてしまっている。

沈黙圧力、忘却圧力に抵抗することは、極端に簡単に言えば「もっとよく考えよう」ということだと思う。今の瞬間、それは正しい大義かもしれないが、長い時間を見た時どうなのか。即座に正しい解が見つかるようなことはまずない。だからこそよく考えないといけない。沈黙圧力、忘却圧力に抵抗する名もなき小さな人々の声に耳を傾けて熟慮することは解を得るための必要条件であろう。

映画「サイレント・フクシマ」はフクシマを扱ったが、そのテーマが抱える範囲はとても広い。



アヤ・ドメーニグ監督

3月5日のお茶会は、政府の原発事故軽視政策を批判し、忘却と闘う5人の日本人アーティストを描いたスイス在住アヤ・ドメーニグ監督の映画「サイレント・フクシマ」(完全版)の上映会でした。上映後、監督にもスイスから参加いただき、ゲスト参加者として、この映画にも出演された中筋純さん、以前のお茶会で講師をしてくださった竹峰誠一郎さん、河田昌東さんと共に、事故後の問題について話し合っていました。(編集部)

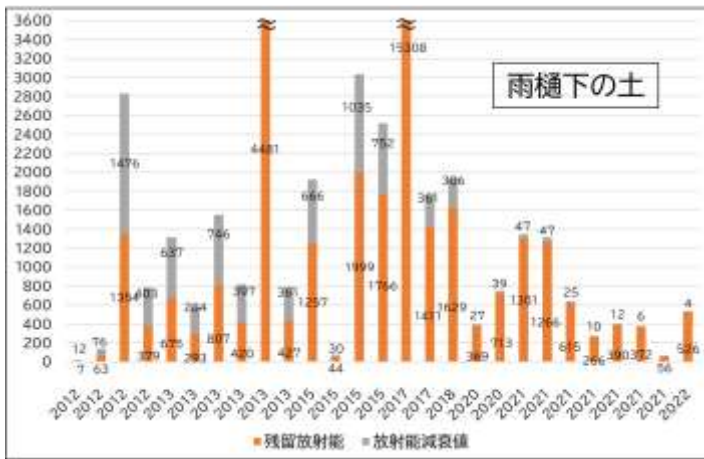
SILENT FUKUSHIMA ホームページ

<https://www.ayadomenig.ch/>

4月2日お茶会「10年目の土壌測定プロジェクト報告書」学習会報告

次の10年の放射能測定プロジェクト モニター募集

ボランティア 佐々木晃介



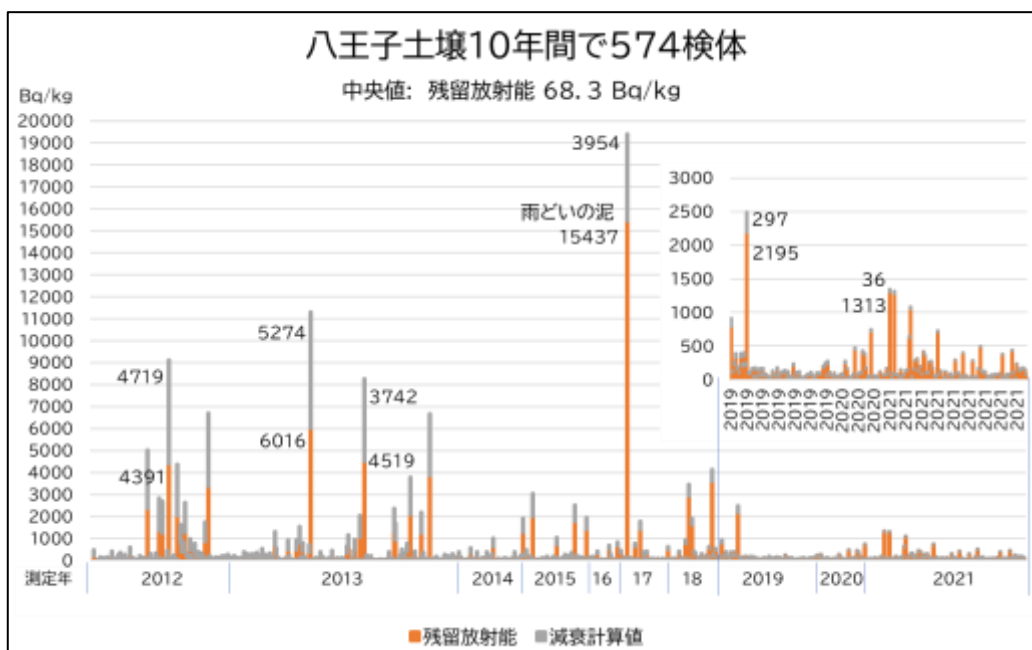
ハカルワカル広場では、2020年11月から2022年3月まで「10年目の土壌測定プロジェクト」を実施し、多くの市民の皆様に参加いただき17か月間で171件の土壌を測定することができました。ご協力ありがとうございました。

10年間の土壌測定の成果を「10年目の土壌測定プロジェクト報告書」にまとめ、八王子の放射能による土壌汚染の実態を分かりやすく見える化しました。

4月2日に報告書学習会を行い、終了後下記アンケート・コメント(抜粋)をいただきました。

- ◎ 改めて一度放出された放射能は自然界に残り続けることを学びました。年月が経つと人間は何でも忘れていきますが、これは忘れてはいけない事だと思いました。
- ◎ 自分一人ではなかなか意識を持続させることは困難です。今回の学習会で改めて学習を続けることの大切さを教えていただきました。
- ◎ 報告を通して、今でもあちこちに残留放射能の現実を伝えることが出来た事は大変素晴らしく、多くの方に危険性を知ってもらうことが出来たのではないかと思います。
- ◎ 今後も土壌測定を続けて行くことが大事だと報告を聞きながら思いました。土壌測定プロジェクトを次の10年も継続しましょう。

「10年目の土壌測定プロジェクト」報告書により、10年間の放射能測定結果を活かして、放射能の雨凝縮、再浮揚、再降下により自然の中で放射能が循環していることが明らかになりました。



セシウム 137 の半減期は 30 年と長く、今後も残り続けるので、これから先も放射能測定を続け、結果を記録し、次の世代に伝えていくことがとても大切です。

次の 10 年の放射能測定プロジェクト モニターの募集を行います。人間は放射能があることを感知できません。放射能は測定器でしか感知できないので、測定を続けることが求められます。

測定を続けるためには、市民の皆様のご協力が不可欠です。そしてハカルワカル広場は、お持ちいただいた検体の放射能測定と見える化を行います。皆様との二人三脚で次の世代へ放射能汚染の実態を伝えていきます。

モニターに登録いただき、土壌・苔・野生キノコ・原木シイタケ・掃除機のゴミ・灰など汚染を表す検体を年 2 回以上お持ちください。測定料は無料です。これらの検体は、放射能汚染の指標になります。掃除機のゴミは年 1 回程度集めてお持ちください。

次の 10 年の放射能測定は、どこの検体(住所ではなく、畑、公園などや土地の高低など)、どのような状態(じめじめ、濡れているなど)を測定受付時に記入していただき、検体分類のキーワードとします。見える化の報告書は、10 年目の報告書と同じ様にプライバシーの保護に配慮して作成いたします。

ぜひ放射能測定モニターに応募ください。

検体を採取し、測定データを記録し、放射能汚染の実態を次の世代に伝えましょう。

ハカルワカル広場では、「モニター応募」の電話またはメールをお待ちしています。

モニター募集のページ <https://hachisoku.org/blog/?p=10002>

高性能放射能濃度測定システム EMF211 ただいま試行錯誤中！

ボランティア 鵜飼 暁

ハカルワカル広場には、現在 2 台の放射能測定器があります。1 台は、開室当初からあるアトムテック社製の AT1320A で、測定室に測定に来た人であれば、誰もが見たことがあるお馴染みの測定器です。

もう 1 台は、町田の「はかる一む」から受け継いだ EMF ジャパン製の EMF211 で、この測定器がハカルワカル広場に来てから 1 年ほど経ちましたが、コロナの影響で、実際に EMF211 で測定された方は未だ少ないのが現状です。

EMF211 の特徴は、AT1320A より測定の下限值が大きく下がるという点です。AT1320A では下限値がおよそ 10Bq/kg ですが、EMF211 では数ベクレル(一桁台)/kg まで下がります。AT では 10 ベクレル以下については放射能があるのか無いのか分からないような食品の測定でも、EMF で測定することでセシウム 137 とセシウム 134 共に下限値が 1Bq/kg を切ることもあり、より正確に放射能の有無を知ることができます。僕自身、EMF で初めて食品を測定した際に、下限値が今まで見たことのない低い数値だったので、測定ボランティアを始めた当初に、測定することで目には見えない放射能を実際に見ることが出来ることに感動した気持ちを思い出しました。AT では不検出だった食品の検体が、EMF で測定すると



EMF211

微量に検出という結果になることがあり、そのことでショックを受ける人もいたのですが、なるべく正確な情報を得ることで放射能に気をつけるようになれば、それは結果的にはポジティブなことだと思います。

EMF では微量放射能が見えるようになることで、誤検出かどうかの判断も AT の時以上に難しく、セシウム独特のスペクトルを読み取る能力が求められますが、今までの 10 年間の AT での測定の実験を活かすことが出来ていると感じています。興味がある人は、是非、EMF での測定にトライしてみてください。

5月7日お茶会報告 『旅するラディオ』刊行記念 朗読&お話し会

ボランティア 石井 暁子

5月のお茶会は、小冊子『旅するラディオ』刊行記念イベントとして、朗読と、編集にまつわるあれこれをお話しする会を開催しました。まず、原作者である二宮さん、編集チームの鈴木さん、石井の3人がリレー形式で朗読をした後、二宮さん、イラストを担当したイズミコさん、編集チームのメンバーを交え、どのように『旅するラディオ』が作られたのか、どんなところに注目してほしいのかなどをお話ししました。その内容をダイジェストでご紹介いたします。

【編集チームメンバーの紹介】

- ◎ 原作者：二宮志郎さん
- ◎ イラスト&レイアウト：イズミコさん
- ◎ 編集チーム：西田さん(冊子全体・文章担当)、鈴木さん(文章・ルビ担当)、佐々木さん(参考資料のページ担当)、キムさん(編集会議参加)、石井(文章・校正担当)

【二宮さんへの質問と答え】

Q1:放射性物質を主人公にして旅物語を語らせるという斬新なアイデアはどこから出てきたのですか？

A1:放射能を今存在している点として見るのではなく、どこから来てどこへ行くのかという歴史を背負う存在として見る必要があるという思いがあった。当時、東京オリンピックが延期やスキャンダルで何かと話題になっており、オリンピックという言葉をよく耳にしていたことで、主人公にオリンピックダムから出発して八王子に来るといった旅をさせてみるという構想が浮かんだ。

Q2:書くのが難しかったのはどんなところですか？

A2:いざ書き始めてみると正確に知らないことがたくさんあった。特にオリンピックダムがどういうところなのか知らず、場所についてのイメージを作っていくのが難しかった。あと、子どもにもわかるように書くには自分が単純明快に理解していなければならず、そう単純ではない事柄を書くのに行き詰まったことがあった。

Q3:自分の描いた物語がイラスト付きの冊子になる過程で思ったこと、気づいたことなどはありますか？

A3:イラストが物事をわかりやすくしてくれる力はすごいなと思った。とくに兄(ウラン238)とラディオ(ウラン235)の比率などは理解するのが難しいと思うが、イラストになったのを見たら一目瞭然、非常に明確でイラストの力を感じた。またイベントの配管など、自分が知らなかったところを編集チームが調べ掘り下げてくれていることにも感心した。

【イズミコさんへの質問と答え】

Q1:この物語のイラストを描いてほしいと依頼されたとき、どのように思い引き受けたのですか？

A1:前回の『放射能ってなんだろう?』を編集する時とても楽しかったので、次も何かあったら参加したいと思っていた。前作のキャラクターが登場する物語ということで描いてみたいなと思った。

【5 月お茶会 参加者からの感想抜粋】

- * すばらしい内容、イラストに何回も感動しています。絵本作家の加古里子さんは、100 年後のことまで考えて本をつくるそうですが、「旅するラディオ」も同じだと思いました。第 3 弾を作成するときには、私も仲間に入れてほしいです。
- * 裏話がとっても面白かったです。イラストの原案がどう変わっていったのかが特に興味深かったです。二宮さん原案なのに、二宮さんは編集会議に参加せず、編集スタッフの皆さんが自主的に勉強しあう、というプロセスが素晴らしいと思いました。まだ実際に放射能スポットがあるということが子どもにも大人にも伝わるといういいなと思います。
- * 「旅するラディオ」制作の新しい試みや苦労などをお聞きしてこの冊子の内容がより深く理解できました。絵をよく見ていなかったところもあったので、そういう意味があったんだ！なるほど！と思いました。
- * 冊子作製の過程が聞いて良かった。特に観念的になりがちな内容を絵という具体的な表現方法を使って子供にも分かるようにしたのが良かった。放射性物質という不確定性のあるものを時間と場所を特定して表現するという難しいことによく挑戦されたと思います。
- * パルシステム東京の市民活動助成基金の助成が、こうして目に見える形の成果(小冊子)となりました事、とても嬉しく思いました。今後子どもたちに、事実を知って考え、行動するために役立ててほしいです。(パルシステム東京 K 様)
- * 二宮さんとイズミコさんのお二人だけでなく、編集担当の方々も科学的な事実を調べ直したり、イラストの色や発電のための構造を調べなおしたり、大変なご努力がよくわかりました。二宮さんと佐々木さん以外は女性の方々に、ハカルワカル広場を支えているのも女性の皆さんのご尽力が大きいことを改めて感じました。私の孫はまだ小学1年と幼稚園なのですが、4 年生になったら読み聞かせてあげようと思います。
- * イズミコさんってどんな方だろうとずっと想像していましたが、あんなにチャーミングで素直に話されるまっすぐな方だったんですね。zoom でお会いできて嬉しかったです。24、25 ページのメッセージとイラストがとても気に入りました。すみっこが大好きな子どもたちが真剣に受け止めてくれることを願います。
- * 難しい内容を易しい言葉で表現し事実を伝え本にすることは想像以上に大変な事だったと思います。文章は読んでもイラストを丁寧に、例えば色の違い等注意してみてなかったなと自分の雑な見方を反省し再度そちらに注意して見みてみようと思いました。
- * 小学生にもわかり易くとの方針で科学に疎い私にも分かりやすく有難いものでした。全く知らなかった変身と分裂のくだりは腑に落ちました。出来れば学校の教科書に掲載して欲しいと思うのですが、今の現場ではかなわぬことでしょうか？
- * 放射能の理解はなかなか難儀ですが、ラディオという呼び名とイズミコさんの可愛いイラストの効果により、恐れなどの感情移入をし過ぎずに科学的に事実を理解するキッカケとして、この小冊子は素晴らしいと思いました。
- * ラジ男とラディオ、に代表されるように、言葉の一つ一つを丁寧に考え、言葉の力を的確に、描かれるものにのせていく…。冊子もちろん素晴らしかったのですが、私は、作られて行く過程のお話をドキュメンタリーにしてほしいと思ったくらいでした。
- * みなさまの熱意と、大変な工程さえも楽しんで行えたという言葉に感銘を受けました。数年前、家族旅行で福島県の避難区域近辺を東北道で通った時、ゴーストタウン化した風景を見た子どもたちに理由を説明すると、大変驚き悲しんでいました。学校や報道では子どもたちに伝えきれていないことがたくさんあると思います。今後も市民活動としての啓蒙活動を心から応援しております。(パルシステム東京 W 様)

たくさん感想をお寄せいただきありがとうございました！

2022 年度総会報告

ハカルワカル広場代表 西田照子

2022 年度八王子市民放射能測定室・ハカルワカル広場の総会を 6 月 4 日にオンラインとハカルワカル広場で開催しました。(オンライン 23 名、会場 9 名、計 32 名の参加)

以下、総会の主要な点をご報告します。2021 年度の活動報告では、コロナ禍の中、午前中を開室し測定活動を続けたこと。毎月第一土曜日のお茶会をオンラインで実施したこと。とりわけ、「10 年目の土壌測定プロジェクト」を企画。福島原発事故から 10 年経っても土壌中には放射能が残っていることを確認し報告書にまとめたこと。また、小冊子「旅するラディオ」を刊行できたことを報告しました。

「旅するラディオ」は小学校 4 年生以上の子どもにもわかる放射能の解説本を目指しています。放射性物質を「ラディオ」と擬人化し、旅物語風にして読みやすくしました。この冊子により、多くの子どもや大人が放射能の危険性を理解し、それがまだ身近なところに残っていることを知り、注意して暮らすことを願っています。なお、この冊子はパルシステム東京の市民活動助成金を受け、無料配布ができています。パルシステムに感謝いたします。

活動方針ではこれから先の 10 年を見据え、身の回りの土やその他のものを定期的に測定する「モニター」を募集することを決めました。決算、予算、また、活発なご質問、ご意見などもありましたが、すべての議題が承認され、無事終了しました。(同封の「総会報告」をご参照ください)

議題外ですが、ハカルワカル広場は諸事情により今後 2 年間のうちに移転先を探さなくてはならなくなりました。安い家賃で、測定室に適切な物件(大変虫のよい条件ですが!)にお心当たりがありましたら、ぜひお知らせください。ご協力をよろしくお願いいたします。

ウクライナ救援募金の報告

ボランティア 鈴木映子

2 月 24 日に突如始まったロシアによるウクライナ侵攻の報道。こんなことが許されるのかと、報道される内容に耳をふさぎたくなるような日々が続きました。

そんな時、『チェルノブイリ救援・中部』という親交のあった NPO から「ウクライナで共に活動してきた NGO の建物が破壊され、救援物資を送りたいから協力してほしい」というメールが届きました。

事務局の話し合いで、どちらかが悪という視点ではなく、純粋に、被害にあっている市民を助けようとしているということ、また搬送ルートが確保され、資金は武器供与には使われないということなども考え、協力することを決めました。募金方法は、会費納入時期のため会費と合わせて振り込んでもらう方法と街頭募金という方法でした。

その結果、本当に予想以上のご協力をいただき、合計 543,556 円を送ることができました。驚くほどの額を送っていただいたり、小さなお子さんが自分の財布から小銭を出して募金してくれたり、多くの方の思いも頂きました。

そのお金がどのように使われたのかは、ハカルワカル広場のホームページに『チェルノブイリ救援・中部』からのお礼状と一緒に掲載されていますのでご覧ください。 <https://hachisoku.org/blog/?p=9643> 皆様のご協力に感謝すると同時に、一日も早く平和が訪れることを願ってやみません。

ドイツ
バイエルン
を出発



到着した
救援物資



ハかってワかった話

二宮 志郎

これは本当にセシウムか

5月12日、たけのこの測定で 4.6Bq/kg のセシウム 137 が検出されています。八王子のたけのこからはもうほとんど検出されなくなっただけに、ちょっと意外な感じがしたのですが、高性能の EMF で2時間の長時間測定をしているので、そのおかげで出てきた数字と思えば納得できなくもありません。

スペクトルは右のように出ています。これを見ると「これ本当にセシウム 137 が検出されているの?」という疑問がわきます。

セシウム 137 のピークがはっきり独立して見えないことには誰もがすぐ気がつくでしょう。ビスマス 214 の 609keV が強く出ているように思うのですが、それにしてはピークが右にありすぎます。

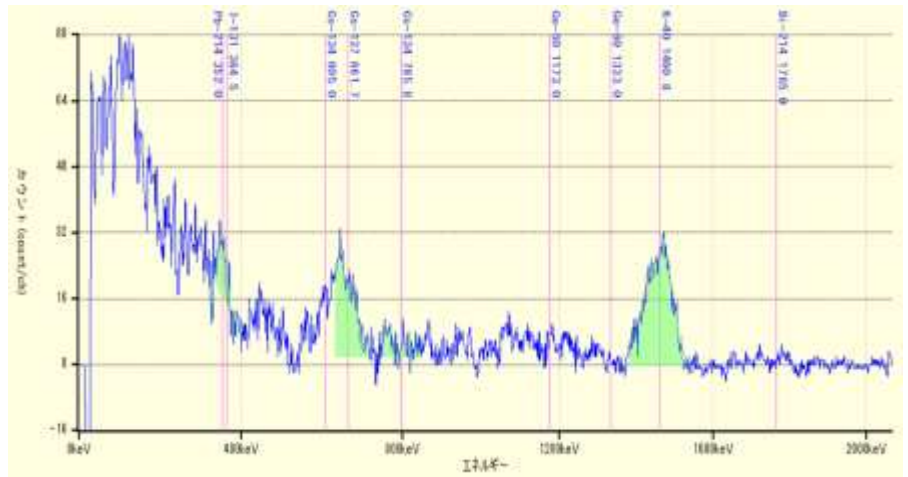
カリウム 40 のところを注目すると、ここもピークがマーカーのある 1460 より右にずれています。グラフ全体が右にずれ気味という解釈をすれば、セシウム 137 のマーカーの左にあるピークはビスマス 214 と見ていいのでしょう。ビスマス 214 と同時に出てくるはずの鉛 214 も出ているように見えます。

そうすると、ビスマス 214 のピークから降りてくる右肩の部分のコブがセシウム 137 という事なんでしょう。コブがあることははっきりわかりますが、なんとも微妙な感じがします。4.6Bq/kg という数字はビスマスのせいで大きく出ている数字のように思えます。実際は 2 以下ではないでしょうか。

検出・不検出

測定器が表示する数字だけでは判断しないものの、検出なのか不検出なのかという判断を一つ一つの測定結果にたいして行っています。ただ、それも便宜上そうしているということであって、実際の世界にそんな境目はなく、全ての物が汚染されているわけです。その汚染の割合が物によっては多少高く、そういう場合に測定器で人間が見てその汚染の特徴を判別でき、それが「検出」というラベルになるわけです。

今回のたけのこはそういう観点で「検出」です。ハカルワカルが昔から使ってきた AT1320A で測定すれば「不検出」になっていたことでしょう。



フクシマ事故後の2、3年の間は多くの人が放射能汚染を気にして、検出なのか不検出なのか、検出なら何 Bq/kg という検出値なのか、与える影響が大きかっただけに私達も公表結果にかなり気を使って判定を入れていました。

最近はその意味で気を使う度合いが減っているところはあるでしょう。一方で、少ないながらも測定結果に注目している人は、もう少し大きな視点や、深い視点で見つめているように思います。

汚染されているということはどういうことか

検出という結果になったたけのこの測定も、別の方法では不検出だったわけですから、まあ、怒られるかもしれないことを覚悟で言えば、そんな判定は大した問題ではないです。

問題はそこに「汚染」があるということであり、その「汚染する行為」を今も私達が続けているということだろうと思います。半減期が経てば消えていくというタイプの汚染は、

$$\text{今の汚染量} \div (\text{半減期} \times 1.4)$$

の新たな汚染が発生する状態で平衡になり増減しないこととなります。すなわち、半減期 30 年のセシウム 137 が 1000Bq ある時、 $1000 \div (30 \times 1.4) = 24$ 次の1年で発生する汚染をこの 24Bq 以下にすれば総量を 1000Bq より減らせることとなります。総汚染を減少させるには、「新しい汚染をやめる」これしかないわけで、やるべきことは単純明解ですね。

「新しい汚染」は核分裂をさせた瞬間に起こってしまい、漏れたかどうかで決まるのは拡散させてしまったかどうかということにすぎません。

Atomtex AT1320A 測定結果(2022年3月~2022年6月現在)

ゼオライトの Cs134 初期値引き算前(Cs134 初期値は 30Bq/kg 程度) 不検出は記載していません。

検体	採取	県名	採取地	検体重量 (g)	測定容器 (cc)	Cs137 Bq/kg	95%範囲 ±Bq/kg	Cs134 Bq/kg	95%範囲 ±Bq/kg	備考
土(倒木付近)	2022.2.28	東京都	八王子市中山	586	1000	319.0	64.0	22.3	6.6	土壌プロジェクト
苔	2022.4.18	東京都	八王子市小比企町	287	1000	201.0	42.0	14.2	以下	
側溝の土	2022.3.30	東京都	八王子市北野台	866	1000	163.0	33.0	20.2	5.4	土壌プロジェクト
培養土	2021	東京都	(パーク堆肥他)	253	500M	125.0	28.0	20.0	8.9	土壌プロジェクト
ペレットストーブの灰	2021	岐阜県	飛騨	202	1000	28.4	23.7	誤検出		
里山斜面下の土	2022.3.8	東京都	八王子市中山	776	1000	110.0	22.0	10.0	4.0	土壌プロジェクト
里山の土	2022.6.14	東京都	八王子市中山	689	1000	107.0	22.8	10.1	4.2	モニター
里山の土	2022.3.28	東京都	八王子市中山	386	1000	100.0	22.0	12.5	6.6	土壌プロジェクト
ミズゴケ	10年以上庭に	東京都	町田市小山	312	1000	87.8	21.0	19.4	9.4	
里山の土	2022.6.14	東京都	八王子市中山	578	1000	105.0	22.0	6.7	以下	モニター
里山の土	2022.6.14	東京都	八王子市中山	675	1000	73.5	15.6	5.7	以下	モニター
土	2022.6.7	東京都	八王子市八幡町	1207	1000	39.5	8.8	13.8	3.8	モニター
庭の土	2022.5.24	東京都	八王子市北野台	851	1000	50.6	11.1	4.4	以下	
雨樋下の土	2022.4.11	東京都	八王子市散田町	1035	1000	35.5	8.0	3.7	以下	
雑草下の土	2020.11	東京都	町田市相原	1090	1000	17.4	4.9	16.5	4.4	土壌プロジェクト
ゼオライト	2022.4.1	東京都	八王子市長房町	1013	1000	31.2	7.7	誤検出		ゼオライト
腐葉土	2021	東京都	(パーク堆肥他)	492	1000	20.4	7.4	10.2	5.3	土壌プロジェクト
培養土	2021	東京都	(ココヤシビート他)	319	1000	26.3	10.5	12.6	以下	土壌プロジェクト
公園の土 (湿った状態)	2022.3.16	東京都	八王子市七国	722	1000	26.3	6.2	4.0	以下	土壌プロジェクト
庭の土	2020.11.1	東京都	町田市相原	702	1000	19.4	6.5	誤検出		土壌プロジェクト
ドクダミ(根付き土付)	2022.5.24	東京都	八王子市本町	350	1000	16.7	8.1	誤検出		家のまわり
里山の土	2022.3	東京都	稲城市	853	1000	12.9	4.4	4.5	以下	土壌プロジェクト
園芸用の黒土	2022.4.20	東京都		1033	1000	12.2	3.9	3.6	以下	自主測定
原木シイタケ	2022.6.23	東京都	八王子市	427	1000	11.8	6.6	誤検出		モニター

EMF211 測定結果(2022年3月~2022年6月現在)

検体	採取	県名	採取地	検体重量 (g)	測定容器 (cc)	Cs137 Bq/kg	95%範囲 ±Bq/kg	Cs134 Bq/kg	95%範囲 ±Bq/kg	備考
苔	2022.4.18	東京都	八王子市小比企町	214.9	1500	222.13	5.65	6.81	3.67	
原木干しシイタケ	2022.6.8	東京都	八王子市	203.8	1800	39.27	4.22	6.69	以下	モニター
シイタケ	2022.3	東京都		372	1800	28.69	1.79	3.39	以下	60分測定
どんぶり	2021.10	東京都	町田市相原	799.3	1500	26.32	1.17	1.48	以下	120分測定
どんぶり	2020.11	東京都	町田市相原	685.7	1500	25.68	1.31	1.72	以下	120分測定
原木シイタケ	2022.6.23	東京都	八王子市	532.4	1000	6.72	0.99	1.64	以下	120分測定 モニター
生タケノコ	2022.5	東京都	八王子市	745.4	1500	4.61	0.93	1.57	以下	120分測定
ドクダミ B	2022.5.25	東京都	八王子市本町	295.4	500	2.21	1.28	2.36	以下	家のまわり
タケノコ(ゆで筍)	2022.4.20	東京都	八王子市谷野町	702.6	1000	0.77	0.50	0.90	以下	240分測定

注) 備考欄の青字「モニター」は次の10年の放射能測定プロジェクトのモニターです。募集が始まりました。



測定室からのご報告とお知らせ

- * 4月2日(土)4月お茶会「10年目の土壌測定プロジェクト報告書」の学習会(報告:佐々木晃介さん)
福島原発事故から10年経っても、土壌中に放射性物質が残っていることを確認しようと「10年目の土壌測定プロジェクト」を立ち上げ、104件(2020年11月~2021年12月)の検体を集めた。その測定結果を報告書にまとめ、学習会を開催した。また、次の10年のモニター募集により、年2回以上定期的な測定(測定料無料)を続けようと呼びかけている。詳しくはこの会報のP.4, 5をご参照ください。
(参加者:オンライン24名、会場2名、計26名)
- * 5月7日(土)5月お茶会「旅するラジオ刊行記念朗読&お話し会」(報告:石井暁子さん、イズミコさん)
放射能について小学4年生以上の子どもにもわかるように解説した、放射能が主人公の旅物語「旅するラジオ」のメイキング秘話。編集チームのリーダー石井さんの司会で、原作者の二宮さん、イラスト担当のイズミコさんのお話も聞きながら、編集にまつわる裏話の数々が披露された。詳しくはこの会報のP.6~8をご覧ください。
(参加者:オンライン38名、会場4名、計42名)
- * 6月4日(土)「2022年度総会」(司会:三橋理江子さん、議長:金山邦子さん)
2021年度の活動報告、決算報告、2022年度の活動方針案、予算案を検討し承認いただきました。詳しくはP.9と別紙の「総会報告」をご覧ください。
(参加者:オンライン23名、会場9名、計32名)
- * 7月2日(土)7月お茶会「原発を並べて自衛戦争はできない」(講師:小倉志郎さん)
元原発技術者の小倉志郎さんによる講演。原発の危険性は使用済み核燃料にもあること、その設計は戦争を想定していないこと、そして「原発は敵に引き金を握られた核兵器であること」を喝破し、ゆえに、「戦争はできない」と警告した。次の論文を参照:<http://chikyuzo.net/archives/8887>
(参加者:オンライン26名、会場6名、計32名)
- * 7月2日のお茶会で、311子ども甲状腺がん裁判の原告の生活支援のカンパについて、渡辺敦雄さんから提案がありました。詳しくは同封の「ご協力をお願い」を参照ください。
- * **[重要なお知らせ]** ハカルワカル広場は、今後2年間のうちに移転する必要があり、移転先についてお心当たりがありましたら、ぜひお知らせください。ご協力をよろしくお願いいたします。

「311子ども甲状腺がん裁判」始まる

2022年5月26日、原発事故当時福島に在住していた17歳から28歳の男女6人の原告が「事故により甲状腺がんになった」として東電を訴えた。原告の一人の20代女性は、県の健康調査で甲状腺がんと診断された。手術を受けたが大学在学中に再発。大学も中退し人生が狂ったと涙ながらに訴えた。裁判では、甲状腺がんの発症と事故との因果関係が最大の争点となる見込みだが、東電はこの因果関係を認めていない。勇気ある6人を応援し、裁判の行方を注視したい。次回口頭弁論は9月7日午後2時の予定。

これからの予定 **オンライン・アクセスが難しい方は直接ハカルワカル広場へおいで下さい。**

- * 8月9日(火)~8月17日(水)まで夏季休室
- * 8月お茶会・・・お休み
- * 9月3日(土)9月お茶会「暮らしと憲法、原発と憲法」
(講師:くぼいなみさん)

会員が減って困っています。
お知り合いをご紹介ください!

次の10年の放射能測定プロジェクト
モニター募集中!

「年2回以上定期的に測定」

「測定料無料!」

ハカルワカル広場は維持会員の会費とボランティアで運営されています。

八王子市民放射能測定室

ハカルワカル広場

〒192-0053 東京都八王子市八幡町5-11 八中ビル2F

お電話 問合せ **042-686-0820**

HP: <http://hachisoku.org> メール: hachisoku@gmail.com

ボランティア、維持会員募集中!
お問い合わせはハカルワカル広場まで

寄付も大歓迎です ゆうちょ銀行 00180-8-290904 (八王子市民放射能測定室)
他行からの振込先 018-0224460 (八王子市民放射能測定室)